

提出日： 2023 年 6 月 3 日

## 研究促進期間制度 研究実績報告書

所属学部・研究科	身分	氏名
文学部	教授	小山 憲司

研究期間	以下1～4より、取得した研究機関を選択し、該当番号を右欄にご記入ください。
	1. 2022年4月 1日 ～ 2023年3月31日 2. 2022年9月 1日 ～ 2023年8月31日 3. 2022年4月 1日 ～ 2022年9月20日 4. 2022年9月21日 ～ 2023年3月31日
活動報告	研究期間中に実施した研究活動を具体的にご記入ください。 海外活動補助費を受給した方は、海外活動の内容が分かるようにご記入ください。
	2022年6月から2023年3月までオーストラリアの RMIT University に客員教授 (Visiting Professor) として滞在し、次の 2 つの研究を行った。 ①研究者の研究活動と学術情報利用 学術出版物の電子化が進む中、オーストラリア国内の日本研究者はどのように研究しているか、どのように学術情報を検索し、入手し、利用しているかを明らかにするため、16名の研究者にインタビュー調査を実施した。 ②大学図書館員の役割 ①に合わせて、オーストラリア国内の大学図書館員はどのように活動しているのか、またその技能や知識をどのように習得しているかを明らかにするため、1名の図書館員にインタビュー調査を実施した。
得られた研究成果について	上記の研究活動の結果、得られた研究成果についてご記入ください。
	調査の結果、多くの日本研究者は情報の入手にあたり、英語文献のほとんどは電子で入手できる一方、日本語の論文は電子で入手しやすくなっているが、すべてではなく、日本語の図書は入手しづらいこと、紙か電子かにかかわらず、図書館で入手できるかどうかは所属する大学によることなどが明らかとなった。研究成果の発信では、大学内で研究成果に対する評価を考慮すると、英語で学術雑誌に発表することが求められ、日本語を選ぶインセンティブは低いこと、他方読者を考慮して、日本語で発信することもあることなどがわかった。
今後の計画について	得られた成果を踏まえ、今後どのように研究を発展させる計画か、ご記入ください。
	本研究成果を 2023 年 9 月 1 日から 3 日にシドニーで開催される JSAA-ICNTJ2023 にて発表する予定である。 また、この成果を踏まえ、今後、次の 3 つの発展可能性を考えている。 (1) オーストラリアの他地域の日本研究者にインタビューを実施し、成果の深化を図る。 (2) 東南アジアなど、世界各地域における日本研究者の研究活動の実際を調査する。 (3) 日本国内の研究者の研究成果の国際的発信の現状、課題、今後の可能性について調査検討する。